

「散歩の便利ツール

「グーグルレンズ」

小河 俊紀

昨年2022年のネットサロンでは、新型コロナ禍での運動不足を補う散歩の途中で、上空に浮かぶ不思議な雲の形状について、雑感を書きました。

その後も、新型コロナ禍は猛威を振るい、2023年
年頭においても収束の気配がなかなか見えません。

ために、人込みを避けた散歩は引き続き私の大切な

日課となっています。悪天候の日はさすがにウンザリ

しますが、それでも注意深く歩けば、今まで気づかなかった世界を発見する喜び
もあります。

今回は、「散歩の途中にふと気づく道端の花々と、最新のテクノロジー“グー
グルレンズ”」について雑感を書いてみます。

“観たことはあるが、名前が思い出せない日常体験”

歳と共に知識吸収力が衰え、テレビを観ていても、若手芸能人の名前はもちろん、
新しい生活グッズや料理の名前もなかなか覚えられません。孫の着ている服の
模様が、「ウツドストック」と言われても何のことやら??



昔懐かしい有名人の顔はすぐ思い出すのですが、名前がなかなか出てこない。さらに気まずいのは、道で出会った知人の名前が出てこない場合です。その日の妻との会話で、「近所のカラオケで数年前に知り合ったあの人に久しぶりに出会った。あの、その丸顔の大柄の男の人だよ。名前は何だっけ？」記憶を引き出す力の衰えです。



“4年前に上梓した書籍で描いた空想未来小説”

私は、2015年から2019年まで放送大学神奈川学習センターで、一般社会人を対象に対面方式で教鞭を取ったことがあります。長く実務に携わってきたカードの基本を詳しく解説し、受講生と未来を語り合う充実した時間でした。

「外国人が多数来日する2020年東京オリンピックまでには、日本をアメリカ並みのキャッシュレス国家にしよう」という私の考えに共感し、講義を応援して下さいました4人の専門家と書籍の発刊を決意し、出版社を探したところ、好運にも法律・実務書分野で実績豊富な民事法研究会に出会いました。2018年春でした。もちろん、自費出版ではなく商業出版です。

そして、共同執筆の骨子と分担を練り始め、「キャッシュレス社会と通貨の未来」と題し、2019年2月に上梓できました。



“西暦2100年の未来、人工知能を搭載した眼鏡”メガナビ”の登場を空想

朝食をとった後、私は散歩に出かけた。空

気がうまい。小川があちこちに流れ、せせ

らぎが聞こえ、緑が目染みる。都会の中

でも、自然が豊富だ。道端には、可憐な花が咲いている。「これは、何という花だろう」

メガナビに聞く。「#アカツメクサです。」

行きかう人たちは、お互い気軽に挨拶の言葉をかけあう。

「今の人、以前どこかで会ったような気がするが、誰だっけ？」



「#1年前に、ボランティアと一緒に道路清掃をした山田さんですよ。」

最近、徹夜で働くことが続き、どうも頭脳が疲れているようだ。メガナビのおか

げで本当に助かる」

(同書 P. 10～11)

余談ですが、私はこの書籍で、キャッシュレス社会の明るい未来を描くだけでなく、「環境汚染で天候異変が進み、利己主義の台頭で民族の対立が激化するため、地球は2030年ころに破滅の危機を迎える」という悲観的予測もしました。

実際、発刊直後から、世界各地で異常気象が頻発し、新型コロナウイルス禍やウクライナ戦争という未曾有の災禍が起きています……。

しかし、**日本人を要に人類の英知を結集すれば、西暦2050年ころから段階的に解決に向かい、2100年の地球は高度の幸福文明に脱皮している**、という大胆な空想小説を私は描きました。もちろん、これらはすべて私の独断ではなく、アメリカの一流科学者たちの未来予測を参考にしています。

小説の前記引用箇所を、そういう観点でお読みいただけると幸いです。

ちなみに、お堅い専門書なので、万部単位のベストセラーには遠く及びませんが、発刊半年後に、アマゾンや楽天、ヤフーのキャッシュレス本分野の売り上げ上位になったことが度々あります。

グーグルレンズとの接近遭遇

2018年5月、グーグルはスマートフォンと連動したグーグルレンズ構想を公表しました。

グーグルレンズとは、何でしょうか？

Google レンズとは、目の前にあるものの情報を調べることができ機能です。Android をはじめとしたスマホアプリで利用できます。スマホのカメラに被写体を写すことで、類似する画像や関連するコンテンツをインターネット上から探し出して、



結果を表示します。また、テキストを写せば文字を認識し、Google 翻訳で対応している言語に翻訳したり文章を読み上げたりすることも可能です。

引用元… [カメラで写して画像検索できる「Google レンズ」の使い方とは？ \(android.com\)](https://android.com)

発表時期は、偶然にも私が前記の未来小説を執筆開始した時期とほぼ同じでした。しかし、Google レンズの存在を初めて私が認識し、利用開始したのは、不覚にもその4年後2022年春でした。

つまり、遠い未来にならないと実現しないだろうと私が夢想していたアイデアの多くは、Google によって2018年当時既に開発されていたのです！

“Google レンズを使ってみるよ”



右の写真は、昨年秋に近所を散歩中に私のアンドロイドスマホで撮影したものです。道端にある花の名前が何か分からないので、スマホ右下の「レンズ」ボタ



ンを押しますと、即座に「外来種セイタカアワダチソウ」として解説が出ました。その他、ひっそりと地味に咲く雑草名も即座に判明しました。感動です。

今では、散歩のたびに愛用していますし、テレビを観ていて登場人物の名前やプロフィールが分からない時もよく使っています。

“Googleレンズの限界”

膨大な情報をサーバーに格納し、画像やテキストを人工知能で判別するGoogleレンズは驚異的で素直に敬服しますが、私の描いた機能のうち、ひとつだけ未達成です。

それは、**顔は覚えていても名前を忘れた知人を検索する機能**です。地球上の全人類の画像や人脈含めた個人情報データベース化し、検索時点で相手を撮影するという前提があります。情報処理の膨大さだけでなく、肖像権やプライバシー

保護の観点で、実現には大きなハードルがあるでしょう。

“まよめ”

長いエッセイになり、失礼しました。

結局、当面は、名前の思い出せない知人を見かけたら軽く会釈をするか、普段から脳トレに励むしかありません。(了)

